

科目名	グローバル・コミュニケーション				担当	小池 明		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年前期	実務経験	多数の国で駐在勤務経験有	
必修	-				ナンバリング	KC104	DPとの関連	(幼) 1 (総) 1
授業概要	誰とでも、或いはどの様な組織、集団とでも深いコミュニケーションが成立するためには相手方の考え方、行動様式などを知る必要がある。換言すると自分以外の文化を理解することが大前提と言える。異文化を意識するのは必ずしも国を異にする場合だけではない。自らのごく近い周囲にも異文化問題は存在する。異なる文化間で交流が成り立つためには相互が彼我の違い、同質性などを理解することが肝要であり、その前提としてまず自らを知ることが大切である。一方、自らを知るためには異文化と対照することも有益であり、合わせ鏡のように向き合い、対比することで彼我の文化それぞれへの理解も進むであろう。本講では様々な文献や Topics を取り上げ、 <u>クラスでの議論を通して異文化への理解と交流を円滑にする方法を学ぶことを目標とする。</u>							
到達目標 学習成果	講義で取り上げた国や地域の社会、文化、慣習などを理解し、現在の様々な国際問題の背景などにも理解が及ぶこと、次いでそのようなアプローチ、手法を通して国際間のコミュニケーションスキルを上達させることをゴールとする。併せて、日本文化への洞察を深める効果も挙げたい。							
授業計画	回	内容						
	1	なぜ今、異文化を理解する必要があるのか	なぜ本講を受講することを決めたのか、それを各自が発表する					
	2	文化とは①	・そもそも文化とは何か・アイデンティティとは？					
	3	” ②	教科書 序章～第3章 各章の《ケース、コラム》に対する各人見解をまとめておくこと（以下の章に就いても同様）					
	4	” ③						
	5	文化の諸相①	文化の違い、異文化への認識、異文化適応に就いて考える、ステレオタイプ化のもたらす負の影響、差別とは？世界の価値観を理解する、異文化への対処					
	6	” ②	教科書 第8章～第10章 各章の《コラム》に就いて自分で試しておくこと（異なった意見を持つこともあってもちろん良い）					
	7	” ③						
	8	コミュニケーション①	・コミュニケーションとは？ ・コミュニケーションの手段、方法					
	9	” ②	・相手の気持ちをどう読むか					
	10	” ③	教科書 第4章～第7章					
	11	グローバル化①	・インターナショナリズムとグローバリズムの違い					
	12	” ②	・ナショナリズム					
	13	” ③	教科書 第11章、更に別途資料を配布する					
	14	まとめ①	各自のプレゼンテーションと、それに就いての討論・講義のまとめ					
15	まとめ②	受講者数にもよるが、各自テーマを選び、5～10分程度の発表を行い、討論を行う						
評価基準	・自らが依拠する「日本文化」に就いて自らの概念を確立し、それを論理的に他者に解説できるか。 ・他者、いわゆる「異文化」との違いを把握、そのうえで相互理解と意思疎通を深化させる方策、関係づくりに就いて提案できるか。 ・自ら異文化交流、意思疎通に関連する事象、題材を選択し論理的な論文にまとめることができるか。							
評価方法	授業参画態度・参画度 50% レポート 50% ・講義の開始時に小メモの提出がある。・期末試験に代えてレポートを課す。・授業での討論、意見発表（小論文の提出を含む）などの参画度 50%、期末に提出するレポート（自らテーマを選択）50%とし、総合的に評価する。							
フィードバック方法	・小メモを課した場合は、講義中に講評を行う ・期末レポートに就いては、評価・採点后に各自のレポートに講評を付して返却する							
アクティブラーニング	各講義に先立って受講者各自で事前調査したことを発表すること、或いは講義中に採り上げたテーマに就いて講義中の対話、討論の時間を設ける。							
教科書	『改訂版 多文化共生のコミュニケーション 日本語教育の現場から』徳井厚子著 アルク・プレス（発行）							
参考書	・『THE MEANING OF INTERNATIONALIZATION 真の国際化とは』（日英対訳）E・ライシャワー著 ・『日本人とユダヤ人』山本七平著 ・『菊と刀』R・ベネディクト著 etc その他、適宜資料を配布。 *その他各自で関連文献を探されたい（授業で紹介することを歓迎する）							
履修条件	・ <u>コミュニケーションを根幹のテーマとしていることを受講者全員が自覚し、講義中、指名された場合は自らの意見など必ず発言すること。</u> ・授業では教科書の逐一解説をするのではなく、質問も含めて受講者が積極的に発言し、活発な討論を通して、知識や考え方を練り上げることを目標とする。従って他者の発言に真摯に耳を傾け、且つ自らも積極的に議論に参加する姿勢が求められる。 <u>良い質問も他者の思考を刺激し、良い意見の誘発に繋がるので大歓迎である。</u> ・最低限、講義で取り上げる教科書の箇所は事前に読んで考え方をまとめておくこと。傍観者的・受動的な受講態度は厳に慎まれない。							
授業外学習	・ <u>毎回の講義のテーマについて必ず事前に知識を持って臨むこと（必ずしも深い知識は要求しない）。</u> ・教科書は必ず関連箇所を事前に読んで講義に臨まれない。 <u>インターネットの活用も大いに奨励する。</u> ・普段からできるだけ新聞に目を通し、世の中で今起きていることに興味と関心を持ち続けてほしい。そしてそれが自らの生活（将来も含めて）にどう関わるのかを関連づける癖をつけてほしい。・授業ではかみ砕いて時々トピックスも採り上げ、それが私たちの生活にどう関わってくるのかを皆で討論しながら理解に結びつけるようにしたい。							
オフィスアワー	講義日は原則、終日短大執務室に在席している。 Mail Address : a-m-koike@uedawjc.ac.jp							